

遠隔地に点在する送電鉄塔の圧縮形接続管の発熱度合をモニタリングできる長寿命センサに関する技術募集

【募集の背景・課題】

遠隔地に点在する送電鉄塔において送電線を固定(把持)する圧縮形接続管は、経年劣化により発熱するリスクがある。現行では監視・診断のために、現地へ人員が出向し熱画像測定を実施しており、労力を要しているため、省力化を図りたい。



【募集ニーズ】

遠隔地に点在する送電鉄塔の圧縮形接続間の発熱度合をモニタリングし、事務所等遠隔地から監視・診断できる技術を導入したい。より安価で耐候性が有り、長寿命(10年以上)のものが望ましい。

診断のためのセンサ等を含まない通信ソリューションのみのご提案は不可とするが、センサ等の診断技術のみのご提案は可。

【プロジェクト詳細】

<制約条件>

- ・寿命が10年以上のもの
- ・センサの動作と伝送にあたり、電源を簡易に供給できない遠隔地(山間地など)でも適用できる技術
- ・測定温度範囲については要相談

<サプライヤー／パートナーに求める条件>

- ①安価にソリューションが提供できること
- ②試作・試験実施に対応可能であること
- ③経営状態が安定していること

<想定フロー>

- a.TEPCO CUUSOOにて技術に関するご提案いただく
- b.ご提案の内容・ミーティング等を通し、課題解決の可能性があると判断された場合、ご提案者様の技術を用いた実証実験を実施
- c.当該ケースと同様の環境下での実証実験にかかる費用は、ご相談の上、東京電力より提供いたします。(～100万程度)

【採用された場合の提携形態】

製品購入、委託発注、共同研究 等

【応募期限】

2018年9月30日

※応募期間・内容は予告なく変更する可能性があります。

※ご提案いただいた後、上記の期間中に、追加でご質問をさせていただく場合がございます。ご了承ください。